

サポーターの方からのご支援ありがとうございます

株式会社 愛媛企画 今回のご紹介: 株式会社愛媛企画様

自動車業界の販促事業等を展開している法人サポーターの株式会社愛媛企画様(愛媛県松山市)は、「お店の活性化+子どもたちの笑顔=Happy に」を掲げ、自動車販売の販促用ののぼり旗 1 本につき 10 円をカンボジアの教育支援への寄付としてくださっています。代表取締役の小田泰平さんは「まだ社外では大きな反響はありませんが、社員全員参加の気持ちではじめたので社内が温かな雰囲気になりました」とおっしゃっていました。同社が支援企画をはじめたきっかけについては次のように教えてくださいました。「司馬遼太郎さんの小説に“知って行かないのは未だ知らないことと同じだ”というくだりがあります。自分は久保秀夫塾(CIESF 理事長久保秀夫が主催する経営塾)で CIESF の活動やカンボジアの歴史と現状を知りました。そこで自分たちにできることは何だろう? と考え、今回の企画に至りました。」 CIESF では企業の方々と一緒に、支援企画を作っていきたいと考えております。皆さまのご協力お待ちしております。



愛媛企画の社員の皆さま

CIESF に関するイベントのご報告

● 「国境なき教師団」応援団主催
カンボジア写真展(8/28~9/2)

「国境なき教師団」応援団主催のカンボジア写真展が、愛知県豊川市にて、8 月 28 日(木)~9 月 2 日(火)まで開催されました。応援団のメンバーである伊藤亮三さん(豊川市在住)を中心に、とよかわボランティア・市民活動センタープリオにおいて、「国境なき教師団」の活動している教員養成校やカンボジアの景色や生活の様子などがわかる写真パネルを展示し、活動の紹介を行っていただきました。

8 月 30 日(土)には、「国境なき教師団」の元教育アドバイザーでプランペン小学校教員養成校にて 3 年間活動していた、笈八郎先生・笈元江先生ご夫妻によるプレゼンテーションがありました。また、最終日である 9 月 2 日には、元教育アドバイザーでプレイベン中学校教員養成校にて 2 年間活動していた大久保博和先生によるトークイベントを開催していただきました。応援団の皆さまの国内でのご協力で心より感謝申し上げます。「国境なき教師団」応援団は、随時集中です。詳しくは CIESF ウェブサイトをご覧ください。



CIESF サポーター募集

- 法人サポーター 1口10万円(寄付から1年間)
- スペシャルサポーター 1口5万円(寄付から1年間)
- 個人サポーター 1口1万円(寄付から1年間)

三菱東京 UFJ 銀行 青山支店(店番 608)普通預金
 口座番号 0021714
 口座名 公益財団法人 CIESF 理事長大久保秀夫

※ゆうちょ銀行、楽天銀行、クレジットカードでのご寄付については、CIESF ホームページをご覧ください。



CIESF の支援活動は寄付で成り立っています。皆さまのあたたかいお気持ちをお待ちしております。

編集後記 リニューアル後のニュースレターが読みやすくなったという声を頂戴しうれしかったです。ここ 3 号は CIESF のお話だけではなく、取材記事を入れています。団体内だけではなく、教育に関わる様々な方からお話を伺うことで、こちらも支援活動に対するアイデアの種をいただいている気がします。種を発芽させ大きく育てるには外を見ないとダメだと思いました。(YM)



CIESF NEWS LETTER

シーセフ ニュースレター

2014 October

第 25 号

公益財団法人 CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

ニュースレターリニューアル 第 3 号



ニュースレターを毎月の発行としまして、第 3 号目となります。現在、リーフレットも改訂を行っており、より新しい情報を皆さまにお伝えする準備をしております。ホームページでは、現地からの情報発信である「現地レポート」や「国境なき教師団」の活動を紹介する「教育アドバイザーの活動日誌」のコーナーを随時更新しておりますので、そちらもぜひご覧ください。また、Facebook グループ「公益財団法人 CIESF」には、ホームページにも掲載しないようなプチ情報を掲載していますので、ぜひ覗いてみてください。それぞれの媒体に関しての、ご意見・感想もお聞かせいただけたらうれしいです。社会貢献活動について、

取材させていただける企業・団体様も募集しております。詳細は、CIESF 事務局までお問い合わせください。

教育のレベルアップのための 2 つのアプローチ

● 教員養成へのアプローチ: 教師を育てることの重要性

1975 年~79 年のポル・ポトの独裁政権によって、カンボジアでは医師や教師といった知識層が抹殺され、「教育の質」に大きな問題を抱えていることは、ご存じの方も多いと思います。ゆっくりゆっくり制度が整ってきた他の途上国との違いは、一度完全に教育制度が廃止されたことです。それから 30 年以上経ち、カンボジアの教育も改善されてきています。教師も育ってきており、現在では全国に 18 校ある小学校教員養成校・6 校ある中学校教員養成校には、毎年定員を大きく上回る学生が受験してきます。教師になって子どもたちにより教育を授けたい、そんな情熱を持った若者が、集まります。ただ、その中で行われる授業に、いろいろ問題が見えるのです。教官自身、理科の実験などを行った経験がないまま学生に教えなければなりません。カンボジアの教員養成の仕組み上、教官は大学卒業後国立の師範学校で 1 年学んでいますから、優秀で知識もあります。欠如しているのは、経験なのです。CIESF では教員養成校 4 校に、知識と経験のバランスのとれた教育アドバイザーを派遣しています。教官とティームティーチング方式で、実験や教具を使った授業を積極的に展開することで、学生に経験を積ませ、教師を育てる活動を行っています。これが「国境なき教師団」です。



教育実習前の学生による模擬授業(算数の図形の授業)

● 行政へのアプローチ: 教育行政を整えることの重要性

教員養成校を卒業して毎年多くの教師が各地に赴任し、子どもたちに教育を授けます。ところが、教師の給与面等の待遇は悪く、副業を持たないと生活できないのが現状です。また、子どもの数に対する校舎や教師の数が不足しているため、午前と午後 2 部制をとっている学校も多く、規定のカリキュラムをこなすのに精一杯で、教科書の丸暗記が主な学習です。その教科書も全員に行き届いてはいません。これらの問題は、行政の問題であり、教育省の課題です。CIESF では、カンボジア教育省の若手官僚に対しての教育行政に関する再教育の場として、教育政策大学院大学を、2012 年 10 月に設立しました。この活動は、時間はかかっても、教育問題の根本解決につながると考えています。



～講演いたします～

CIESF では、活動をお伝えする講演活動を行っています。話者は、CIESF 創設メンバーであり、理事・事務局長の戸田陽子です。団体設立から日本の事務局運営を行ってきた女性の視点で、カンボジアをはじめとした途上国にとって、今必要な教育支援についてお話いたします。少人数からイベントでのコンテンツとしてなど、ご相談に応じますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

特集 教育関連企業と社会貢献③

カンボジアをはじめとした途上国の教育支援を行っている私たち公益財団法人 CIESF は、日本の教育について調べて、考えてみることにしました。現在カンボジアにおいては、学校という建物(=ハードウェア)ではなく、教育の中身(=ソフトウェア)の支援を行っています。具体的には、教師の質の向上を目指しベテラン教師を現地の教員養成校に派遣する「**国境なき教師団**」事業。そしてカンボジア教育省の若手官僚から国の教育政策を担う人材を育成する**教育政策大学院大学**事業です。日本の教育に基づいて、カンボジアに適した形でアドバイスをを行うのですが、基本となる日本の教育について、きちんと知っておかなければならないと思いました。現在、日本の教育も様々な課題を抱えています。その課題解決の課程や方法は、将来、途上国の教育支援に必ず活かせると想定しています。

まずは、教育関連事業を行っている企業の方にインタビューを行い、学校とは違う角度で日本の教育における課題を伺ってみます。また、ご紹介する先は、教育関連企業の中でも社会貢献に力を入れている点に注目し、取材のお願いをした企業です。



カンボジアで活動する「国境なき教師団」の教育アドバイザー

早稲田塾 後編

インタビュー第 2 回目「本物に出会い、本物で鍛える」次世代のリーダー育成プログラムを行っている早稲田塾(本部:東京都千代田区/東京・神奈川・埼玉・千葉に全 24 校を展開)の後編をお届けします。お話を聞かせてくださったのは、秋葉原校責任者の白石恒生(しらいしこうせい)さんです。

“ミレニアム・ゴール・ポイント”という新しい社会貢献のカタチ

早稲田塾は、国連からも注目される、独自の社会貢献システムを構築しています。調印した相手は、2025 年までに世界から極度の貧困をなくすというビジョンのもと設立された NPO「ミレニアム・プロミス」(代表:コロンビア大学地球研



ミレニアム・プロミス代表ジェフリー・サックス氏と早稲田塾代表

究所所長 ジェフリー・サックス氏)。塾生の学習時間をポイント化し、応じた金額をマラリア撲滅活動の資金として寄付するという、世界初の革新的な内容です。たとえば、入館すればビタミン剤約1錠、1年間塾を活用すれば、マラリア対策に有効な殺虫剤処理を施した蚊帳1帳分になる、といったもの。早稲田塾では日常の努力が社会貢献につながる、という意識を生み出す環境設定をしています。「自分の目標を達成するために、勉強を頑張るほど、他者の役に立つ。そのことに気づく高校生は、受験に対するモチベーションも上がり、確固たるものになるはず。白石さんにうかがったところ、この活動には、きちんとしたフィード

バックがあるそうです。「貢献内容、ポイント数は、代表であるジェフリー・サックス氏の証明サイン付きの認定証として、塾生一人ひとりに授与されます。さらに、様々なネットワークが生まれ、2013 年 5 月、ミレニアム・プロミスのご協力、ミレニアム・ブレッジが存在するタンザニアの運輸大臣が来塾され、特別講義をしてくださいました」。

この会では「タンザニアの現状がリアルにわかった」「自分が勉強を頑張るほど、アフリカの子どもたちが笑顔でいられると知った」「ミレニアム・ゴール・ポイントをもっと広めたい」等の感想が多く聞かれたそうです。

今回早稲田塾を取材して、「塾」という言葉を再度意識しました。思い起こしたのは、江戸時代末期、黒船来航のころ、世界に目を向けた若者たちが貪欲に学んだ私塾。そこで育った人財が明治の新しい日本を作ったこと――。

お話の中での「受験がなくなっても、早稲田塾は存在しますよ」という白石さんの言葉が印象的でした。こうした環境で育った人財がビジネスにつながる New Thinking をベースに問題を解決し、日本と世界をつないで、よりよい国際社会を作っていくてくれるのではないのでしょうか。彼らの活躍が、楽しみでなりません。

(インタビューー CIESF 事務局 増子夕夏)

カンボジアの教科書事情 ①

10 月 1 日(水)～12 日(日)まで、愛知教育大学図書館内のアイ・スペースにて、「カンボジア教科書展」を開催しています。主催は CIESF の「国境なき教師団」応援団です。学校教育にとって切っても切り離せないのが教科書です。教科書を見ると、その国の教育の特徴がわかります。「国境なき教師団」の元教育アドバイザーである筑八郎(かけひはちろう)先生がまとめた、「カンボジアの教科書事情」についてご紹介します。



カンボジアの算数の教科書

カンボジアの教科書は、小学校～高校の教科書は国や地域によっていろいろな形態のものを使用されています。政府と民間の関わり方から大きく分けて3つに分類されます。

1. 国定教科書: 国家(政府)が発行して、生徒に使用を義務付けるもの
タイやマレーシアなどはこのタイプです。韓国もこれに当たりますが、2010 年から中高の教科書は国定でなくなったようです。
2. 検定教科書: 民間が発行するが、国家(政府)が検定を行なうもの原則として、児童生徒は使用を義務付けられますが、検定外教科書を副読本として併用する場合があります。日本やドイツ、ノルウェーなどはこのタイプです。
3. 検定なしの教科書: 民間が発行して、国家(政府)は基本的に干渉しないもの
児童生徒に購入の義務はなく、学校からの貸出し制にしている国もあります。アメリカや教育先進国と言われるフィンランドなどがこれに当たります。

有償か無償かの区分もありますが、現在はほとんど無償制度ではないでしょうか。また、給付制か貸出制かの区分もあります。現在の日本は無償の給付制度になっていますが、同じ検定制度のノルウェーでは無償の貸出制です。一方、カンボジアの教科書は国定教科書で、無償の貸出制をとっています。

その場合、年度の初めに教科書を学校から借りて年度末に返却する形と、学校が管理して授業で使うときに借り、授業



ある小学校の図書室の様子。後ろの棚にあるのは算数(右側)と社会(左側)の教科書

が終われば学校に返す形があるようです。同じ教科書を何人もが使うため、教科書を印刷する予算の少ないカンボジアのような国には適した方法です。恐らく紛失でもしようものなら大変なことになってしまうのではないのでしょうか。でも、1 冊の教科書が何年も使われているとぼろぼろになり、表紙はおろか一部のページがなくなってしまうという事態も出てきます。この使い古された教科書を換えるために、教育省では毎年各学校から上がってくる要望数を追加印刷して配布しています。しかし現在、教科書の印刷・配布に関する予算は十分ではありません。要望数、つまり必要数に対して十分な供給ができていないようです。

(次号につづく)